

第4学年1組 国語科学習指導案

2026年1月22日（木）5校時

児童数 27名

指導者 富岡 淑佳

- 1 単元名 伝え合おう「私はこう読む こう感じた」～観点を一つ選んで～
教材名 「スワンレイクのほとりで」（小手鞠るい 作 光村図書）
- 2 授業づくりの視点

- 教科と特別活動は、相互に影響を与え合い、学びを豊かにする「往還関係」にあると捉えている。特別活動では、児童が話し合いたいこと、または学級で話し合うべきことを議題として、問題解決に向けて話し合いを進めている。国語科では、初発の感想や授業から、児童が疑問に思った「なぜ」を大事にしながら、本文を読み進めている。実践ウォッチの「一つの花」では、「なぜお父さんは、ゆみ子ではなく、一輪のコスモスを見つめて行ってしまったのか」「なぜ題名が、一輪のコスモスではなく『一つの花』なのか」と、主題に迫る「なぜ」が児童から生まれ、その「なぜ」に向けて意見交流を進めた。
特別活動は、困っている友だちを助けたり、上手く表現できない友だちをフォローしたりする「学びに向かう集団」を形成する大事な役割を担っている。国語科の学習においても、一人一人の考えや思いが違うからこそ、「対話」を通して、学級全体で教材を読む価値や協働的な学びを生み出していると考えている。
- 4月当初、授業中に発言する児童や話に反応する児童に限られていた。作業には前向きに取り組めるのだが、自分の考えをもつということに消極的であったり、自分の考えを伝えることそのものに自信がない様子が窺えた。そこで、教科においても特別活動においても、ペアやグループで話し合う場面を設定するようにしてきた。また、話し合いの場では、決して一つの考えにまとめるのではなく、個々の考えを大事にするようにしてきた。本単元では、一人学習の時間をゆったりと設け、まず自分の考えをもつことから始める。
- 進んで発言しようという意欲は、学級全体に生まれつつあるが、まだまだ、友だちの発言の中に大事な言葉があるにも関わらず、それを聞き逃したり、その言葉の値打ちに気が付かなかったりすることが、往々にしてある。本教材は、主人公「歌」を通して外国の異文化に触れ、追体験をしながら、「歌」の思いの変遷を読み深める。友だちの考えや思いをしっかりと「聞く」ことで、互いの共通点や相違点を知り、自分にはない考えを取り入れ考えを再構築する「対話」の力と言葉の力を本単元の意見交流の場面で培っていきたい。

- 3 単元の指導目標と評価規準（＊ ——— の部分が特別活動との往還と捉える。）

単 元 目 標	<p>○<u>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。</u> 【思C(1)カ】</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 【知(1)オ】</p> <p>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 【思C(1)エ】</p>	
評 価 規 準	知識及び技能	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を「言葉のたから箱」などの語彙表を活用することで増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 【(1)オ】
	思考力 判断力 表現力 等	<p>・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して、文章化している。 【C(1)エ】</p> <p>・<u>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、ノートの中の自分の考えに印を付けながら、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。</u> 【C(1)カ】</p>
	主体的に学習に取り組む態度	<u>進んで一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、学習の見通しをもって、物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。</u>

4 本時の学習（〈くらべる・見つける〉6／9時間）

（1） 本時の目標

- ・ 自分で選んだ観点をもとに、アメリカでの経験で「歌」がどのような思いをもつようになったのかを、友だちと伝え合うことができる。
- ・ 友だちの考えに共感したり違いを認めたりしながら、自分の考えを深め広めることができる。

（2） 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と方法
1 本時のめあてを確かめる。	○前時の一人学習を想起するようにする。 ☆学級全体で共有した「なぜ英語を勉強したくなったのか。」という問いに触れる。	
<div>◎ めあて アメリカでの経験で「歌」がどのような思いをもつようになったのかを、友だちと伝え合おう。</div>		
2 同じ観点を選んだ者同士でグループになって意見交流をする。 (三つの観点) ・アメリカの人々や自然の様子から。 ・「グレン」との出会い、野菜畑での会話から。 ・スワンレイクでの会話や情景から。	○「歌」と「グレン」の会話や「歌」の心内語から理由を明らかにして、発言するようにする。 ☆グループでは、自主的に司会者を決めて話合いを進めるようにする。 ☆一人学習だけでは、自分の考えがまだ明確でない児童が多いと予測される。そこで、分からないところや迷ったところを必ず発言するようにする。 ☆考えを一つにまとめるのではなく、自分自身の考えをしっかりとらせるようにする。	【思C(1)エ】 ・選んだ観点到繋がる場面を捉え、「歌」や「グレン」の行動や会話、情景、歌の心内語を手がかりにして、歌の気持ちの変化を具体的に考えている。 (記述・発言)
3 学級全体で意見交流をする。	○観点が三つになるので、考えの根拠となるキーワードやキーセンテンスを押さえるようにする。 ☆自分の考えを深めたり広めたりするために、共通点や相違点が明確になるように板書する。 ○「なぜ」につながれば、まとめる。	【思C(1)カ】 ・理由を明らかにしながら自分の考えを伝えようとしている。 ・友だちの発言に共感したり、相違点を認めたりしている。 (観察・発言)
4 本時のふり返りをする。	○根拠を明らかにして友だちの考えのどのようなところに共感して考えが深まったか、どのようなところが違って考えが広まったかをふり返るようにする。 ☆自分の学びの良かったところを書き留めておくようにする。	【主】 ・本時を通して、自分の考えの変容を確かめようとしている。(記述)

(☆印を特別活動との往還と捉えている。)